

宇治市観光振興計画 後期アクションプラン(案)

宇治市 市民環境部 商工観光課

第1章 計画の目的と期間

I. 計画策定の背景

宇治市では、平成13年度に、10年間で観光入込客数を400万人から500万人に増加させることを目標に「宇治市観光基本計画」を策定し、宇治灯り絵巻等の実施や源氏物語ミュージアムのリニューアルをはじめとする様々な事業を展開し、源氏物語千年紀にあたる平成20年には、556万人の観光客を迎え、当初の目標は達成してきました。

しかしながら、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、国においても、近年の観光をめぐる情勢の変化に対応していくため、観光基本法を改正し、観光立国推進基本法を制定しました。また、人口減少による国内観光市場の縮小とそれに伴う地域間競争の激化、ライフスタイルの変化と余暇活動の多様化、さらに平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響、近年の国際情勢等、観光を取り巻く現状は年々厳しさを増しています。

このような中、近年の観光客のニーズや社会情勢の変化を的確に把握し、恵まれた観光資源に磨きをかけ、多くの人を訪れる観光地を目指すため、「宇治市観光振興計画」を策定しました。

その後、本市では、本計画に基づく各種施策に取り組むとともに、主要な観光地の改修工事が終了したことも相まって、観光入込客数では、平成27年に559万人と過去最高となりました。しかしながら、平成28・29年に実施した「宇治市観光動向調査」の結果では、本計画を策定した際の数値目標に届かなかった項目の他、満足度調査では、下がった項目も複数ありました。

このため、恵まれた観光資源に頼るだけではなく、宇治市の観光に関わる全ての個人・団体が、さらに多くの人に満足していただける観光地を目指すため、「宇治市観光振興計画後期アクションプラン」を策定しました。

II. 計画の位置付け

本計画は、「宇治市第5次総合計画」を上位計画とし、「宇治茶と歴史・文化の香るまちづくり構想」や「宇治市歴史的風致維持向上計画」等をはじめとした関連計画との整合を図っています。

また、観光の振興は行政だけで推進していただけるものではなく、観光事業者等をはじめ、宇治市観光協会、市民、行政が適切な役割分担のもと取り組んでいくことが重要です。本計画では、互いに協働して取り組んでくための基本方針やアクションプラン等を提示するものです。

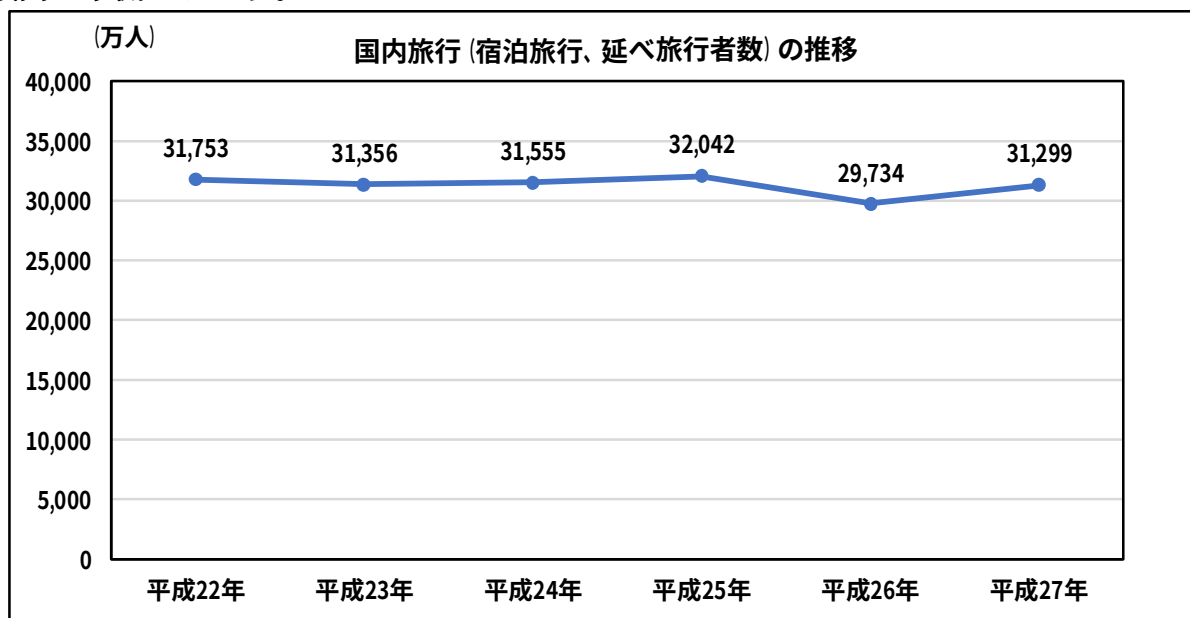
Ⅲ. 計画の期間

本計画は、平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間計画となっています。計画期間を前期 5 年と後期 5 年に分け、前期 5 年間の進捗状況や観光を取り巻く社会情勢の変化を踏まえて、今回、後期 5 年間の後期アクションプランを策定しました。

第 2 章 観光を取り巻く状況

I. 国内の観光市場動向

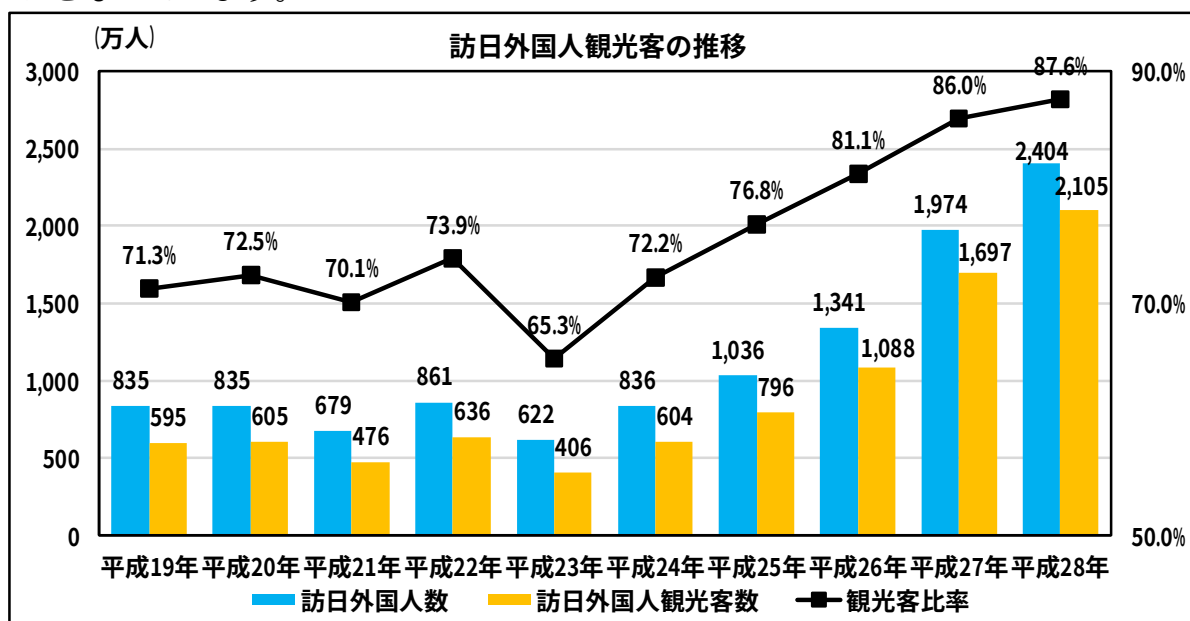
国内旅行者数（宿泊旅行、延べ旅行者数）は、平成 26 年にやや減少がみられるものの、平成 22 年以降横ばいが続いていますが、今後は、少子高齢化や人口減少等を背景とした減少傾向が予測されます。



資料：旅行・観光消費動向調査（観光庁）

II. 外国人観光客数の動向

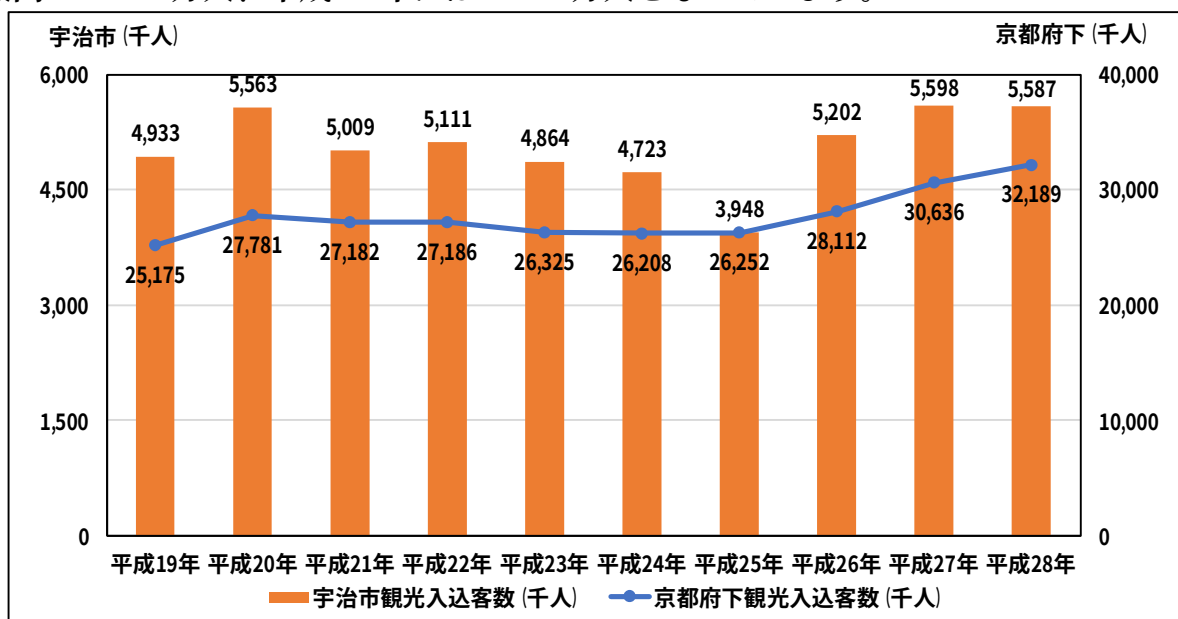
外国人観光客数は、平成 23 年には東日本大震災等の影響により減少しましたが、その後、大幅な増加傾向となり、特に、訪日外国人に占める観光客の割合が増加し平成 28 年には 87.6%となっています。



資料：日本政府観光局（JNTO）

Ⅲ. 宇治市への観光客数の推移

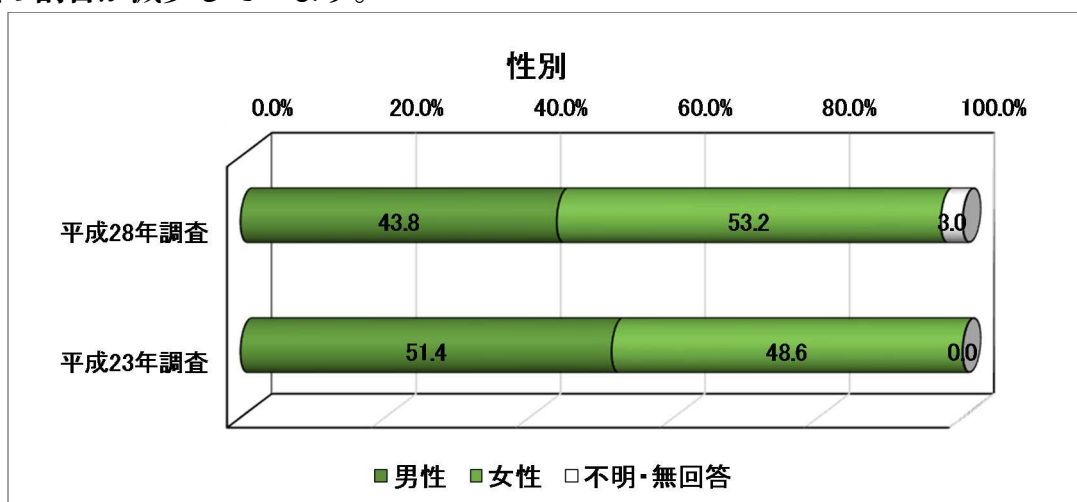
観光入込客数の推移をみると、源氏物語千年紀にあたる平成 20 年には、京都府や京都市等との連携による各種イベントの実施や情報発信、また、源氏物語ミュージアムのリニューアル等が功を奏して 556.3 万人となりましたが、以降、平成 23 年の東日本大震災等の影響の他、宇治市の主要観光地や宇治川の改修工事、台風災害の影響のため一時的な減少が見られましたが、主要観光地の改修工事の完了や外国人観光客の増加により、平成 27 年には過去最高の 559.8 万人、平成 28 年には 558.7 万人となっています。



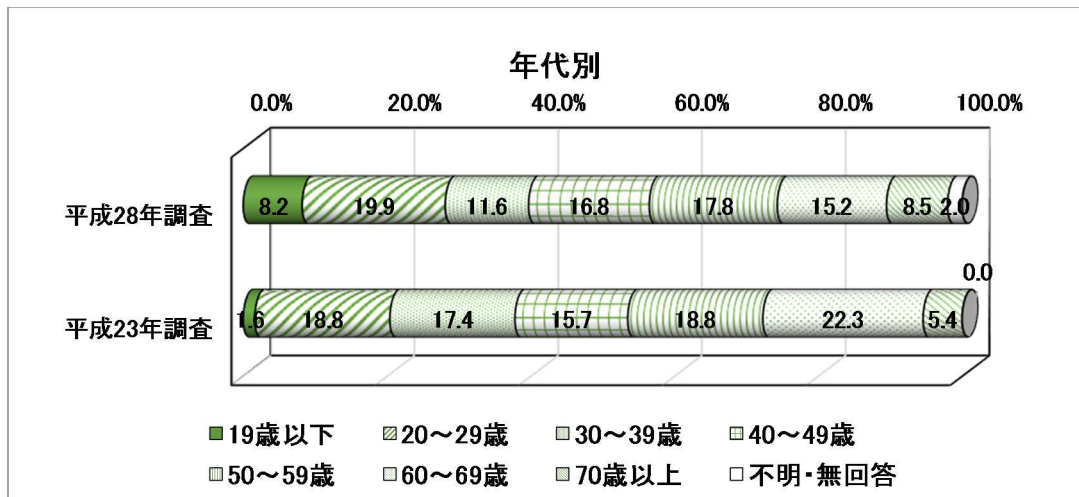
資料：京都府観光入込客数調査

Ⅳ. 宇治市への観光客の特徴

宇治市を訪問する観光客の特徴について、平成 28 年の調査と平成 23 年の調査と比較すると、男性の割合が減少しており、年齢層では 70 歳以上、20 歳代の割合が増加し、30 歳代、60 歳代の割合が減少しています。

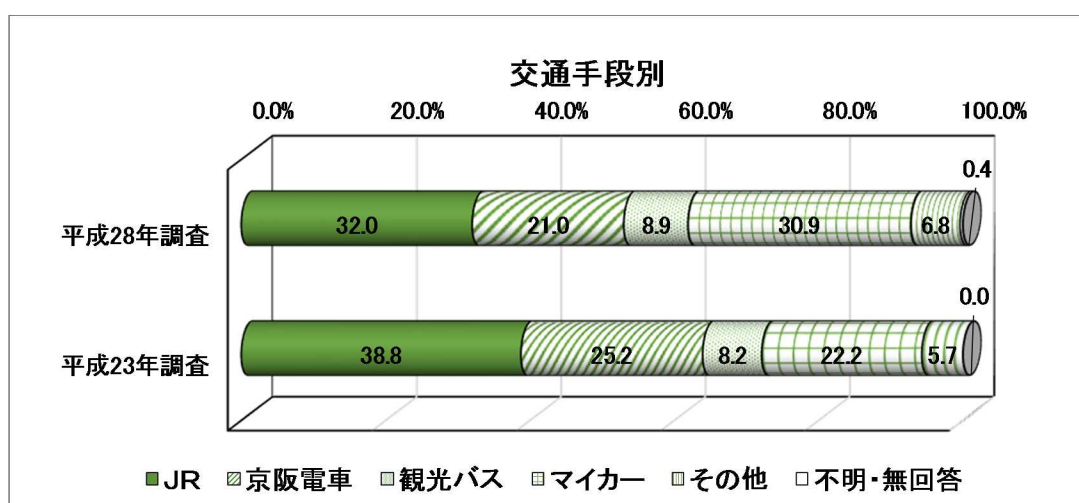
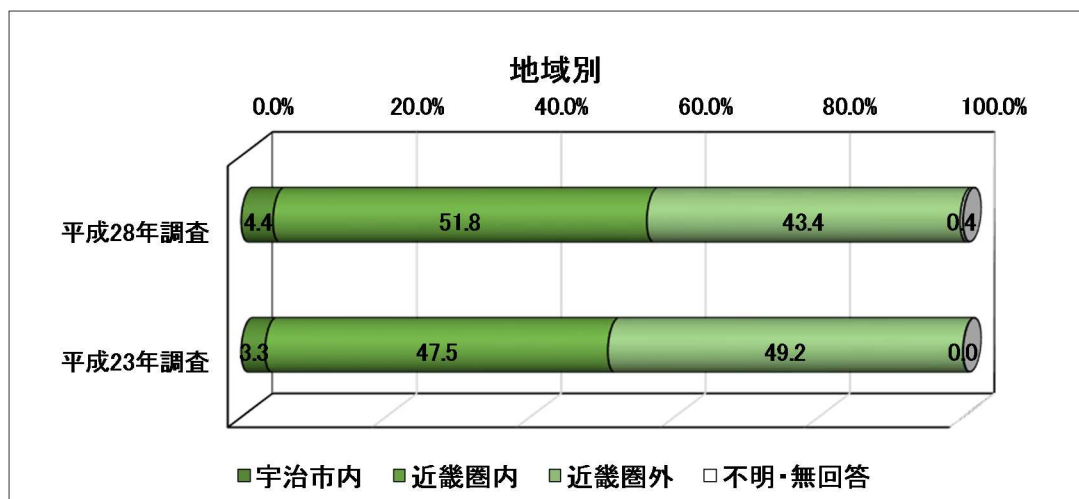


資料：宇治市観光動向調査（平成 23、28 年度）



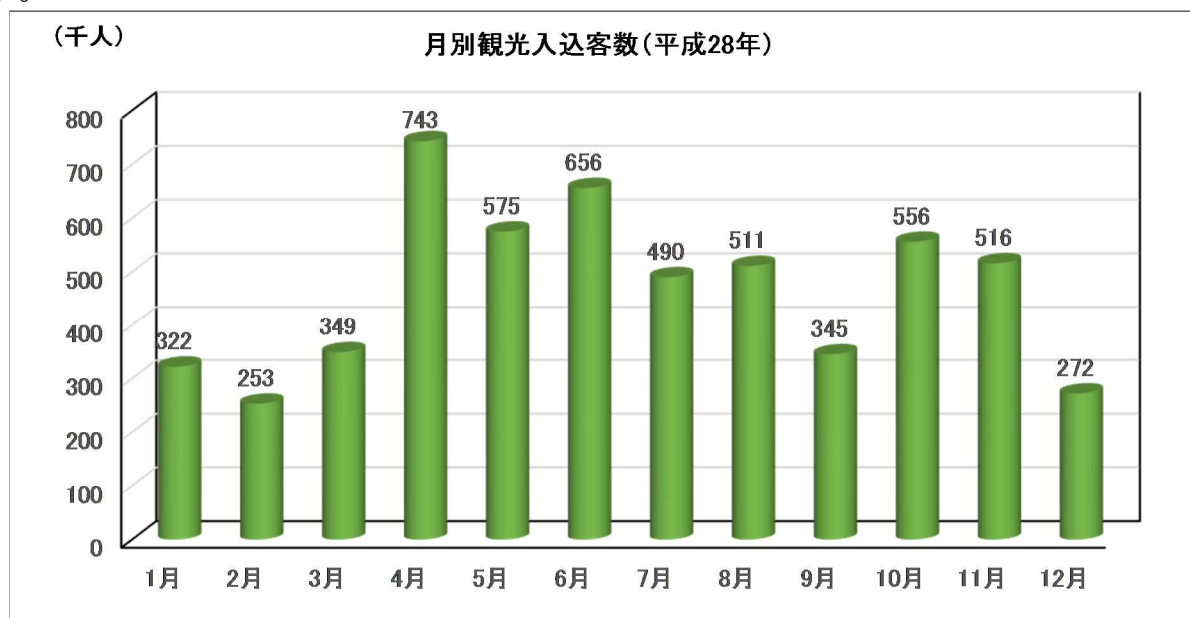
資料：宇治市観光動向調査（平成 23、28 年度）

地域別では平成 28 年の調査と平成 23 年の調査を比較すると、近畿圏内からの割合が増加し、交通手段ではマイカーの割合が 30.9%まで増加し、JR や京阪電車の鉄道利用者の割合が 53%まで減少しています。

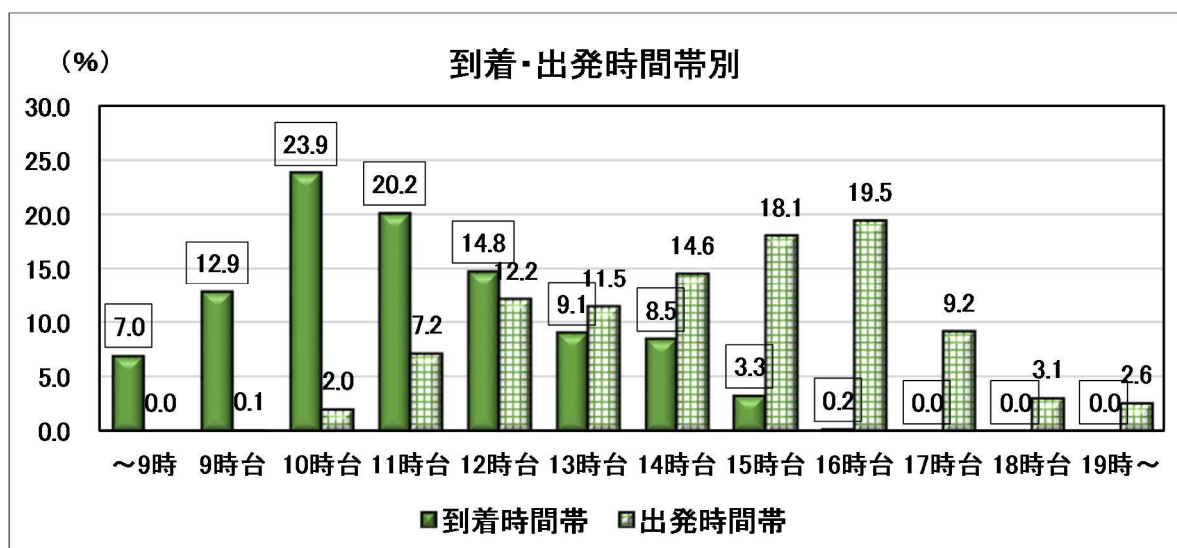


資料：宇治市観光動向調査（平成 23、28 年度）

宇治市を訪問される方の時期をみると、9月を除き多くが春から秋となっており、特に冬の時期の観光客数が少なくなっています。時間帯をみると、到着時間帯のピークは10時台ですが、帰りのピークが16時台と早く、昼間の観光が中心となっており、夜の観光客は非常に少ない状況です。宇治市での平均滞在時間は、3時間34分となっています。また、1人あたりの観光消費額は、平成28年の調査と平成23年の調査を比較すると614円増加しています。



資料：京都府観光入込客数調査(平成28年)



資料：宇治市観光動向調査(平成28年度)

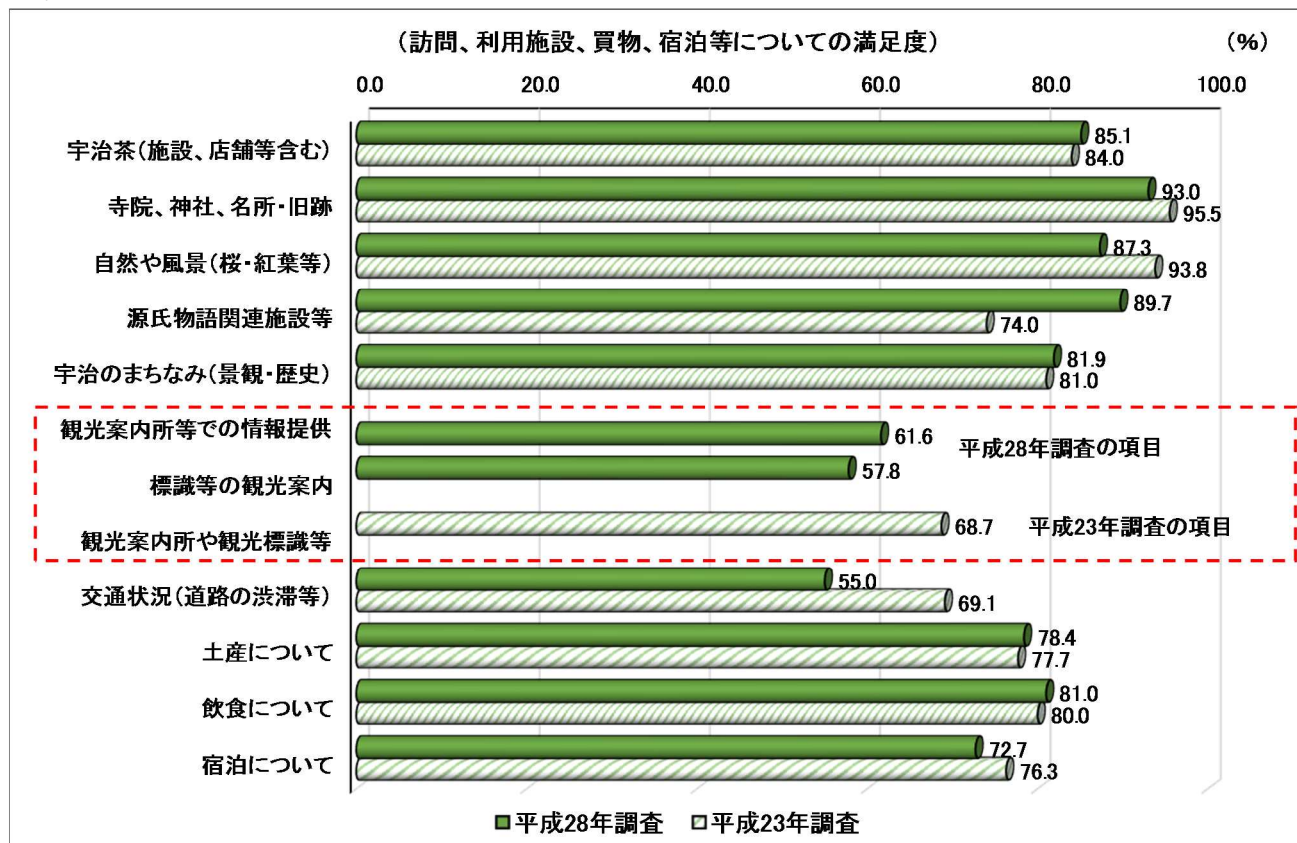
平均滞在時間及び1人あたりの観光消費額

調査年	平均滞在時間	1人あたりの観光消費額
平成28年調査	3時間34分	4,046円
平成23年調査	3時間21分	3,432円

資料：宇治市観光動向調査(平成23、28年度)

V. 宇治市への観光客の満足度

寺社仏閣等、宇治茶（施設、店舗等含む）、自然・景観や宇治のまちなみや飲食については、およそ 80%以上の観光客に満足いただけていますが、交通の状況、観光情報の提供の面では十分満足いただけていない状況です。特に、道路の渋滞等の交通状況の満足度が 55%と低くなっています。

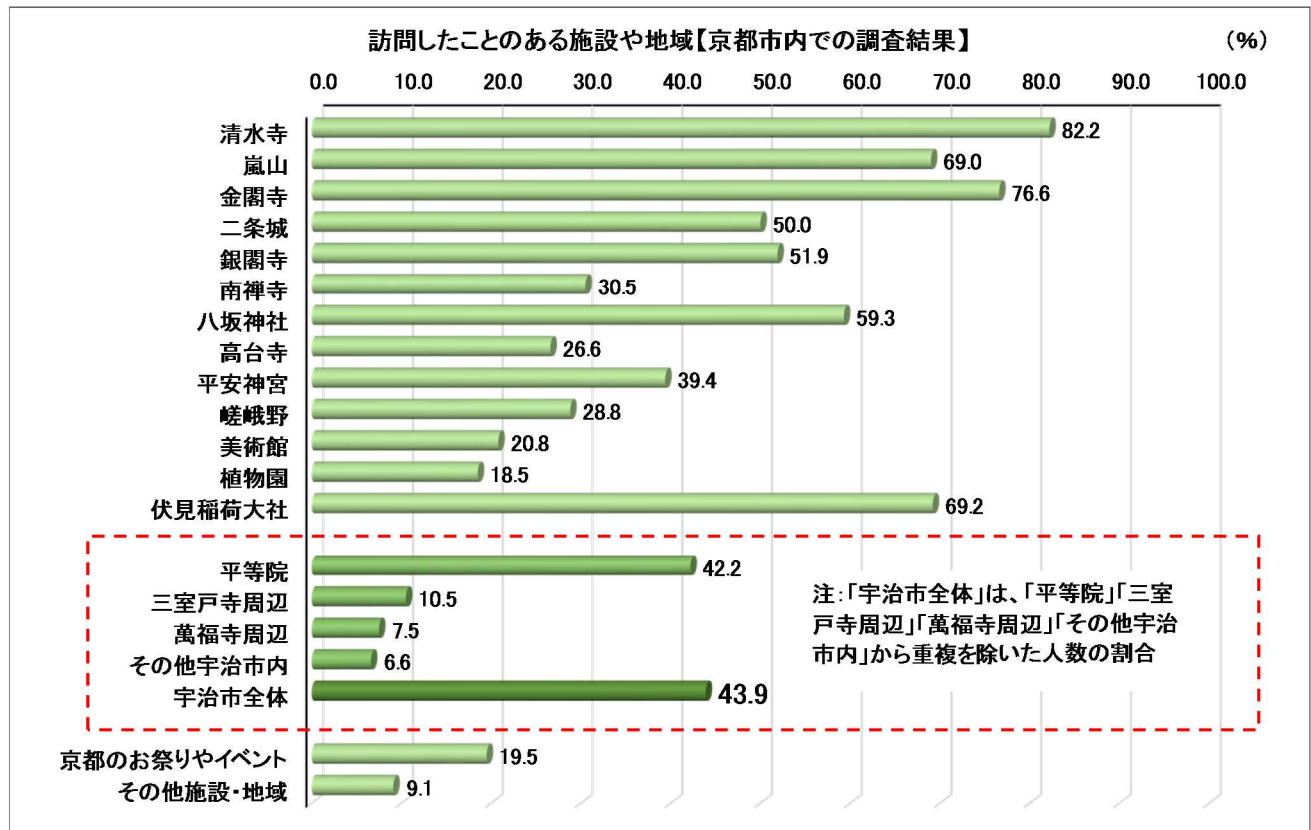


資料：宇治市観光動向調査（平成 23、28 年度）

注：「観光案内所や観光標識等」は平成 23 年度調査、「観光案内所等での情報提供」「標識等の観光案内」は平成 28 年度調査

VI. 京都観光客における宇治への訪問経験

京都市の観光地（東山（円山公園）、嵐山、金閣寺、伏見稲荷大社）へ観光に来られた方約 1,460 人に訪問したことのある施設や地域を調査したところ、宇治エリアには 43.9%（約 640 人）が、訪問経験があると回答されました。



資料：宇治市観光動向調査（平成 28 年度）

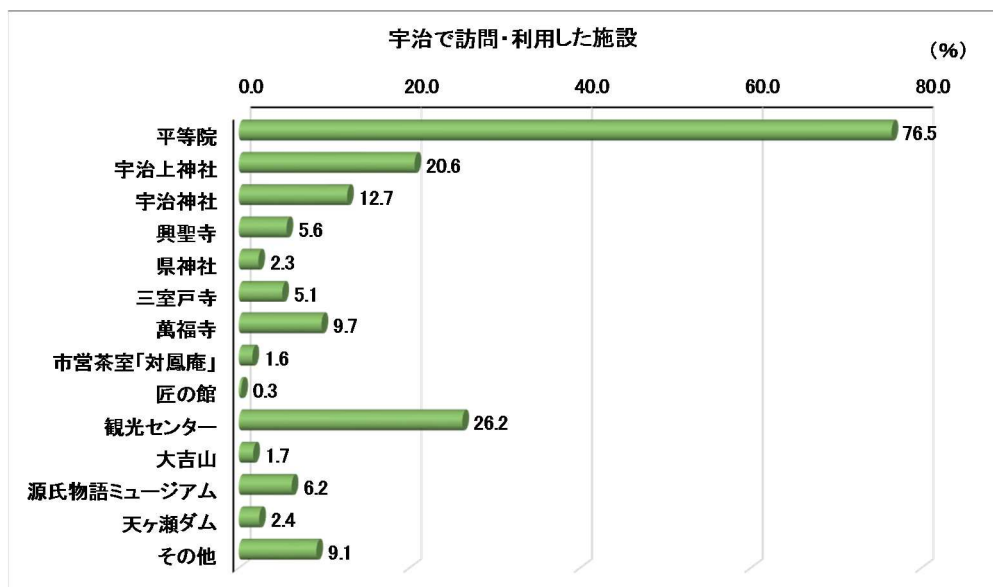
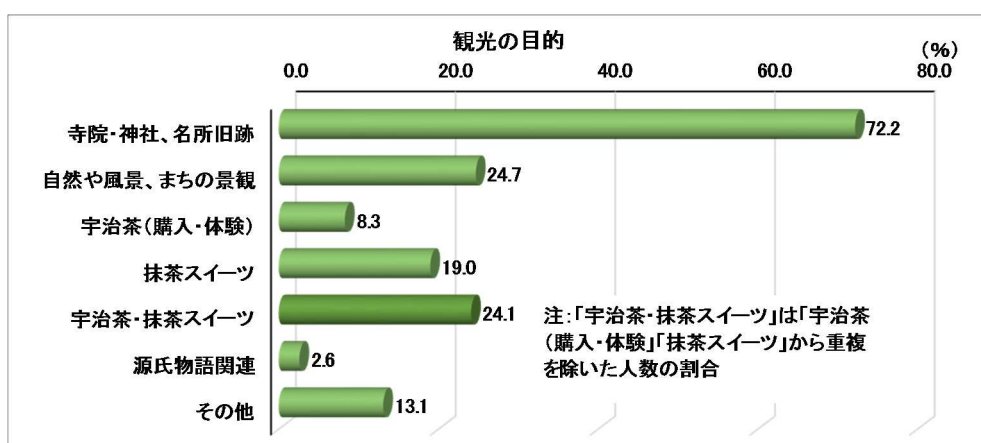
VII. 宇治市観光の特性と課題

観光動向調査や統計資料、策定委員会等の意見を集約すると、宇治市の観光についての特性や課題が明らかになりました。

■観光の特性（観光の強み）

①豊富な歴史遺産

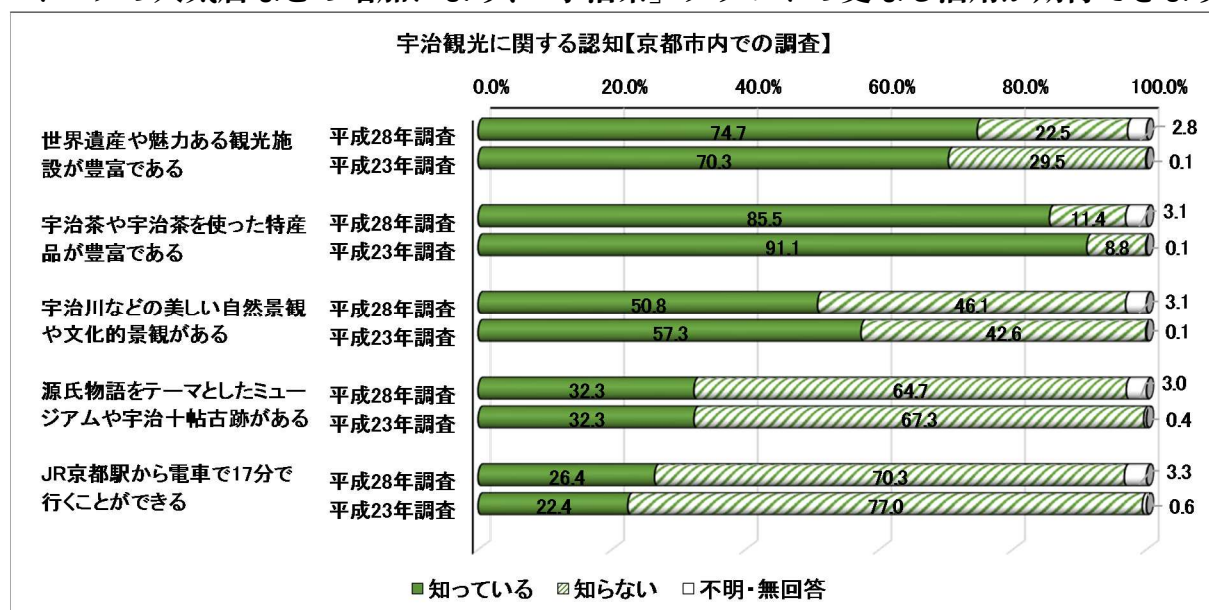
宇治市には、「平等院」や「宇治上神社」といった世界遺産をはじめ、寺社仏閣、名所・旧跡等が豊富にあり、これらを宇治市観光の主な目的に挙げている人が7割となっています。特に「平等院」には76.5%の観光客が訪れており、一極集中の状況が顕著です。



資料：宇治市観光動向調査（平成28年度）

②全国ブランドの宇治茶

「宇治茶」は高級茶として名高い全国ブランドの特産品であり、覆下栽培の独特の茶園風景や茶問屋が軒を連ねるまち並み、茶道や茶室等文化としての側面もあります。京都市内に訪れた観光客への調査によると、これまで宇治に行ったことがある人の宇治観光の認知度では「宇治茶」の割合が最も高く 85.5%となっています(平成23年度調査では91.1%)。しかし、実際に宇治に観光に訪れている人への調査では、「宇治茶(購入・体験)」を主な目的とされている人は8.3%であり、抹茶スイーツを加えた「宇治茶・抹茶スイーツ」でも24.1%と、観光客の来訪目的にはつなげていない状況です。最近では宇治茶を使ったスイーツの人気店などの増加により、「宇治茶」ブランドの更なる活用が期待できます。



資料：宇治市観光動向調査(平成23、28年度)

③豊かな自然景観

宇治川周辺地域は、特別風致地区に指定される等都市に隣接する豊かな自然が保全された地域であり、また、国の重要文化的景観にも選定される等宇治を特徴づける自然・文化遺産や伝統産業が凝縮した地域であり、数多くの魅力的な景観が存在しています。

④歴史文化を活かしたまちづくり

古来より交通の要衝として栄え、平安時代には貴族の別業の地として、また、源氏物語宇治十帖の舞台にもなった歴史文化が息づいています。この約20年間は源氏物語にスポットをあて、ハード面では源氏物語散策の道や源氏物語ミュージアム等の整備、ソフト面では紫式部文学賞・紫式部市民文化賞の創設等、源氏物語のまちづくりを展開してきました。さらには近年、宇治川太閤堤跡の史跡指定や、宇治の市街地とその周辺が国の重要文化的景観に選定されたことを契機に、「お茶と歴史・文化の香るまちづくり構想」に基づき、歴史まちづくりを展開してきました。

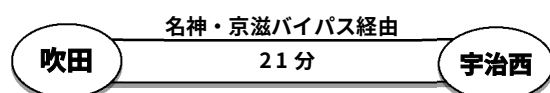
⑤京都・大阪・奈良からの近接性

JR 西日本、京阪電気鉄道、近畿日本鉄道、京都市営地下鉄の鉄道網や、京滋バイパスや第二京阪道路等の広域幹線道路網に加え、平成 25 年に京都第二外環状道路が全線開通したことに加え、城陽ジャンクションが開通する等、宇治への交通アクセスの利便性はますます向上しています。

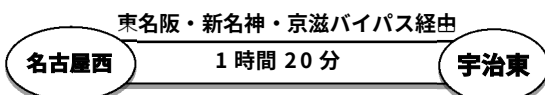
宇治までの所要時間

●車で

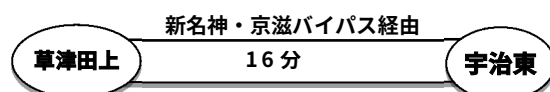
《大阪方面から》



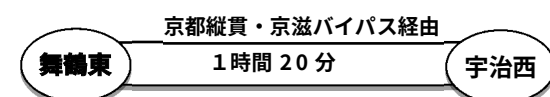
《名古屋方面から》



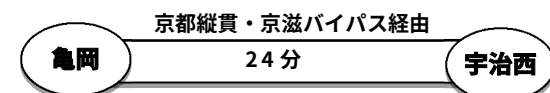
《滋賀方面から》



《舞鶴方面から》



《亀岡方面から》



●電車で

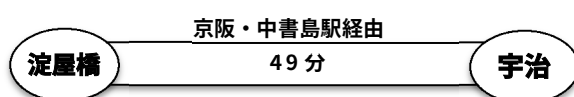
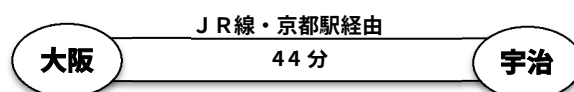
《東京方面から》



《名古屋方面から》



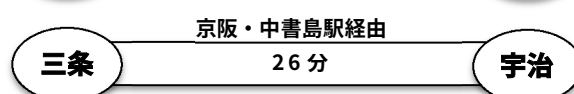
《大阪方面から》



《奈良方面から》



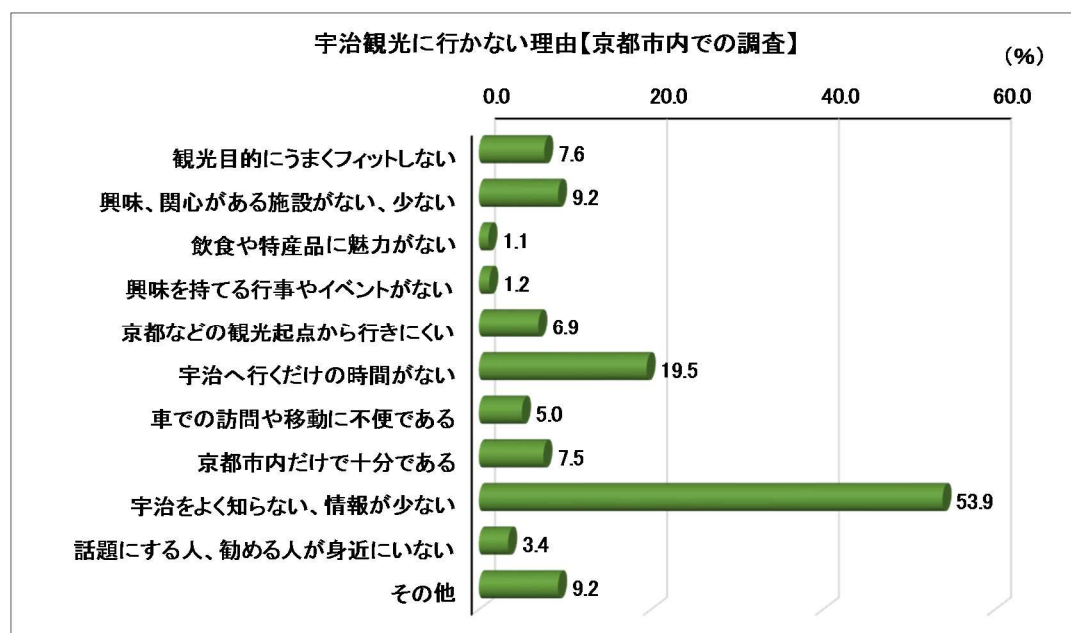
《京都方面から》



■観光の課題（観光の弱み）

①情報発信力の不足

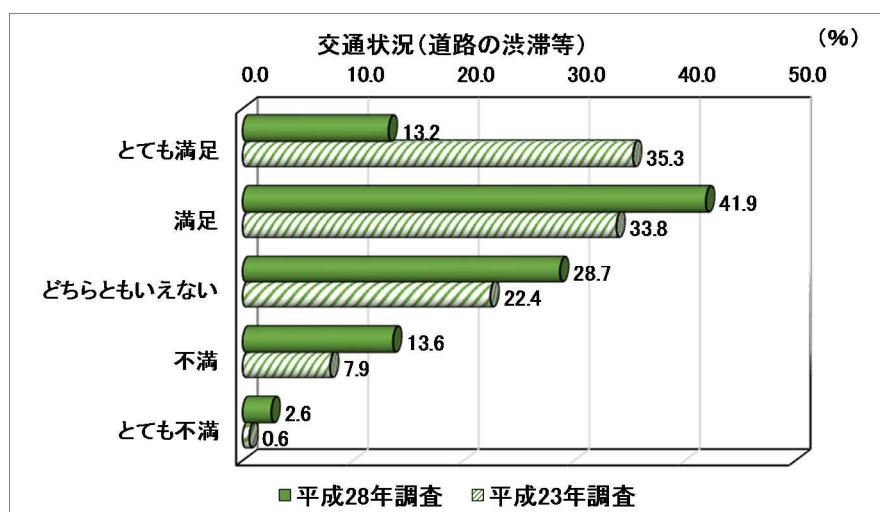
観光動向調査によると、京都を訪問した観光客のうち宇治エリアを訪問したことがない方の理由として、情報不足が圧倒的に高いことが明らかとなり、SNS の活用が十分できていないことなどが原因の一つであると考えられます。



資料：宇治市観光動向調査（平成 28 年度）

②交通・駐車場の問題

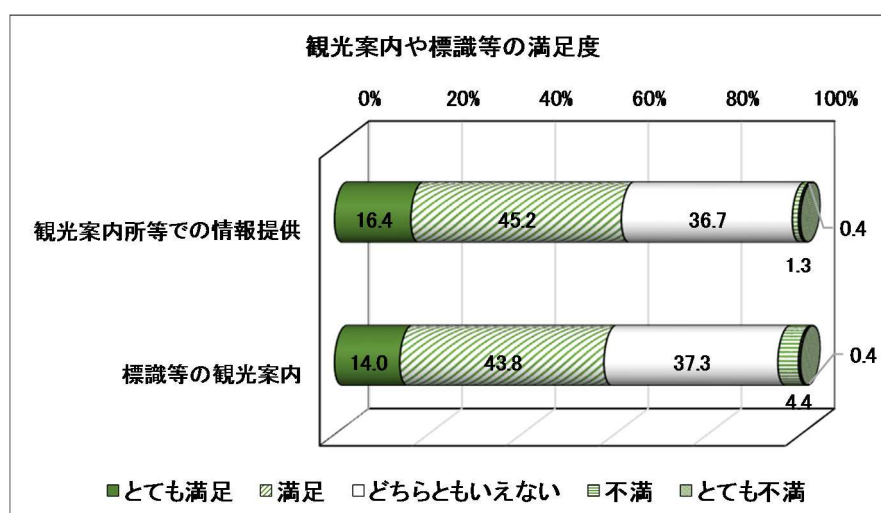
民間事業者によるコインパーキングの新設により駐車場の確保が進められているほか、平成 26 年より、事業者、観光協会、行政が連携し観光シーズンの臨時駐車場対策を進めて参りました。しかしながら、依然として渋滞は発生しており、今後も渋滞解消に向けた取り組みが求められています。



資料：宇治市観光動向調査（平成 23、28 年度）

③観光基盤の改善・観光地としての演出不足

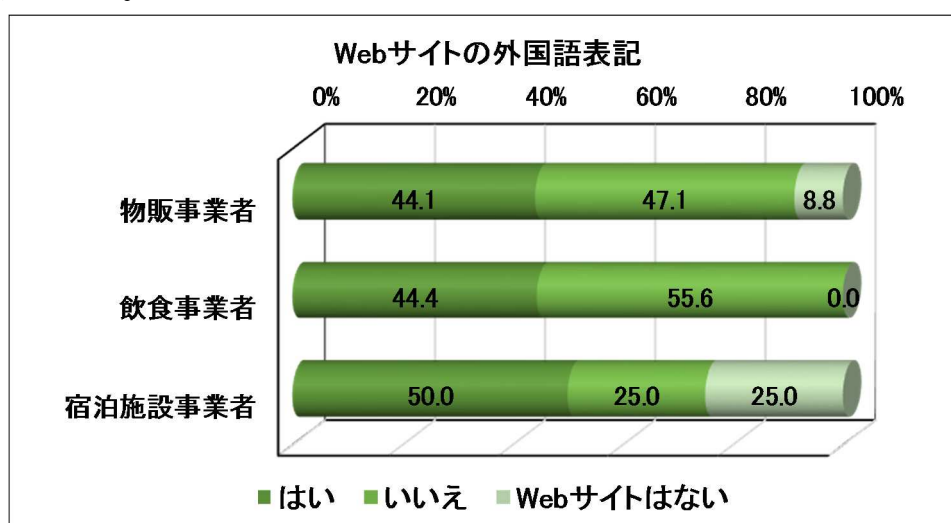
観光動向調査では観光案内所や案内標識等、宇治市に來られてからの情報提供の面で、十分な満足が得られていないことがわかりました。また、京阪宇治駅前には観光案内所が開所し、観光地としての機能を備え、正面には古いたたずまいを残した茶問屋等宇治らしい景観がある一方で、JR 宇治駅前の観光地としての機能や景観について策定委員会等からも重要課題として指摘されています。



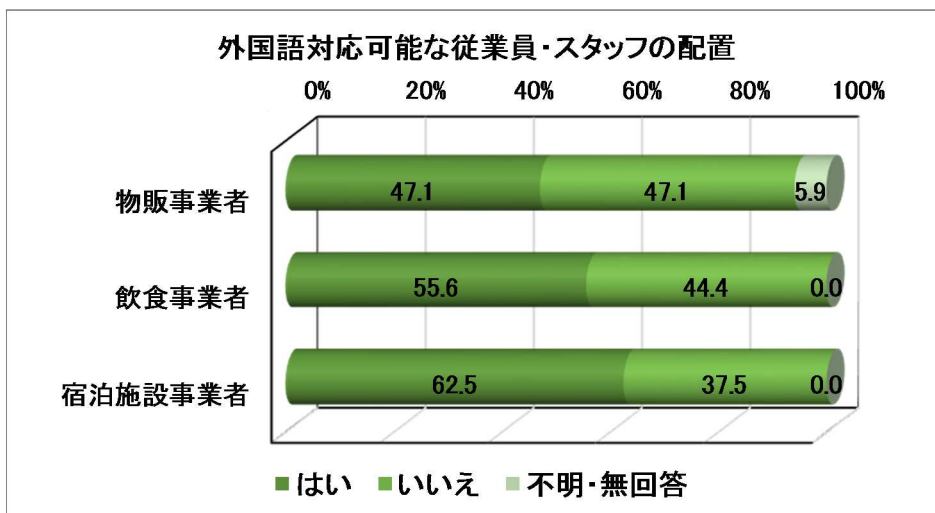
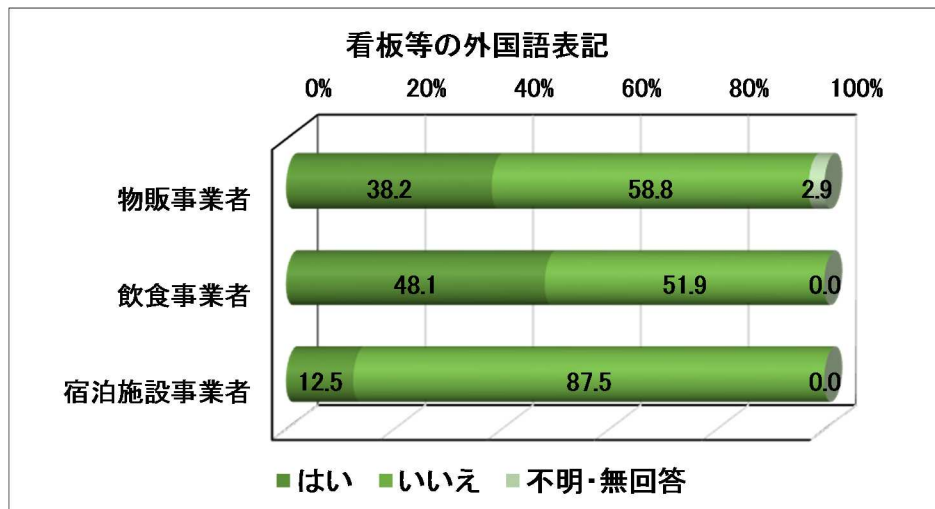
資料：宇治市観光動向調査（平成 28 年度）

④外国人観光客（インバウンド）対策不足

国においては今後の成長戦略の一つとして観光の推進が掲げられ、特に外国人観光客（インバウンド）の増加を目指しています。観光行動では、観光に来るまでの情報収集、観光地に来てからの店舗や施設の確認、店舗や施設に入ってからコミュニケーションやおもてなしなどそれぞれの場面が想定されますが、いずれの場合も対応が不足している状況がみられました。



資料：宇治市観光動向調査（平成 28 年度）



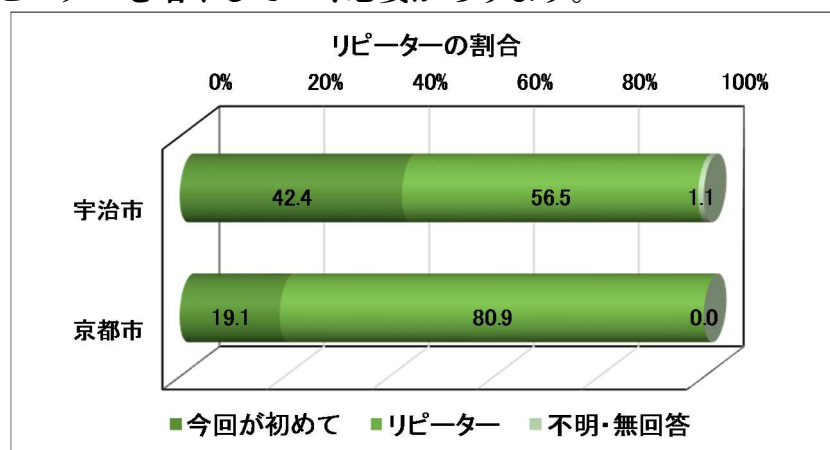
資料：宇治市観光動向調査（平成 28 年度）

⑤おもてなし意識の希薄

一般的な傾向として、有名な観光地では恒常的に集客が見込めることから、観光事業者等のおもてなし意識が希薄になりがちです。観光地の印象は、観光施設等の魅力だけでなく、その地域の人やお店での対応等、人との出会いやふれあいにより大きく左右されるものです。宇治市においても、観光事業者だけでなく、市民全体でおもてなしの意識、観光客をあたたく迎える気持ちを再認識していく必要があります。

⑥観光客のリピーターが少ない

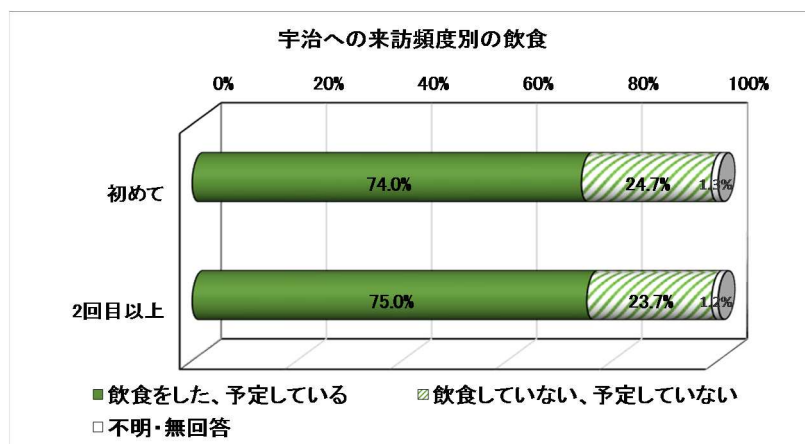
観光動向調査によると、宇治市を2回以上来訪されたリピーターは56.5%となっており、同調査で実施した京都市内でのリピーター率80.9%と比べると低くなっています。集客力の高い観光地はリピーターが多いことを踏まえると、また来たくするような魅力をさらに向上させ、リピーターを増やしていく必要があります。

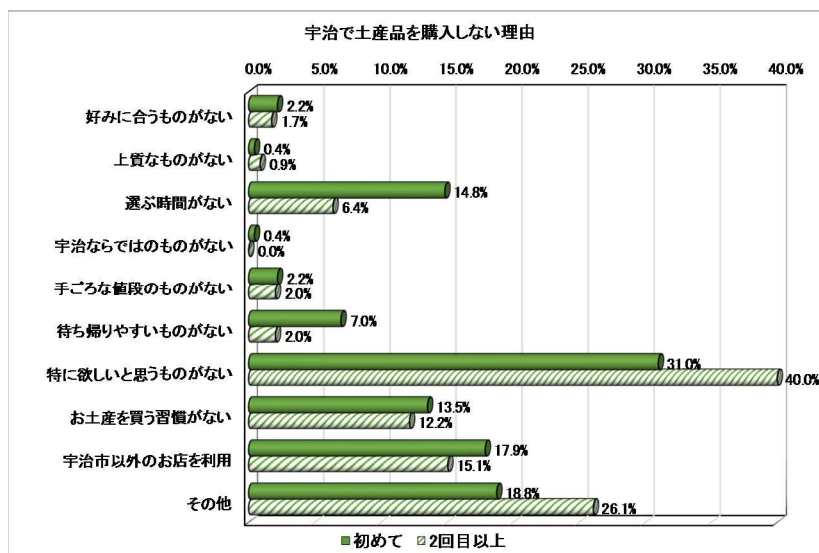
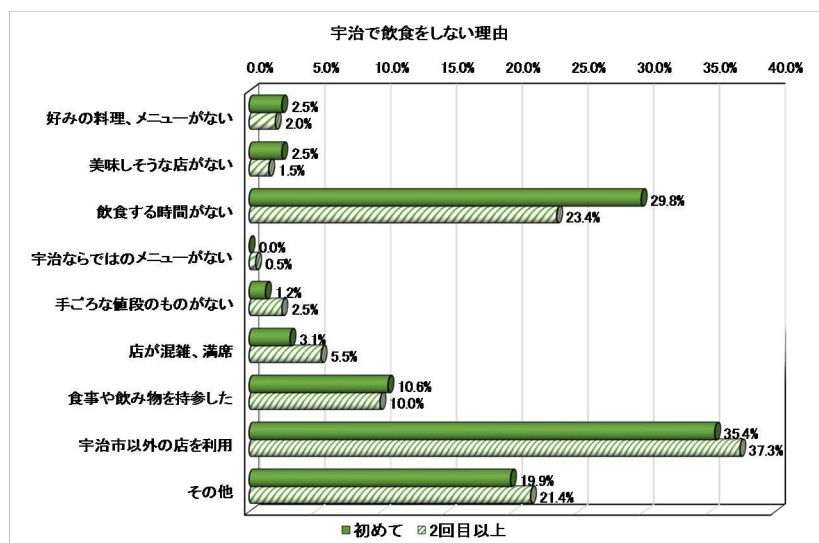
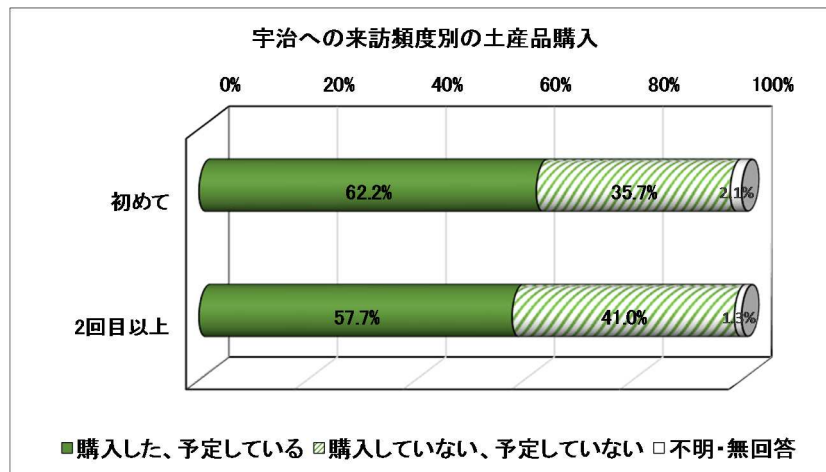


資料：宇治市観光動向調査（平成28年度）

⑦商品開発力の不足

観光動向調査によると、宇治市に来られる観光客でお土産の購入をされた方は約60%となっています。お土産を購入しない理由として「特に欲しいものが無い」が約36%となっており、買いたいモノがないと感じる方が多く、「あのお土産を買って帰ろう」と思える商品が不足している実態があります。





資料：宇治市観光動向調査（平成 28 年度）

第3章 宇治市観光が目指す姿と戦略

I. 基本理念・目標

宇治市には歴史遺産、宇治茶、自然・景観、歴史文化等、古来より受け継がれてきた貴重な財産があります。これらは市民にとってかけがえのない財産であると同時に、宇治市を訪れる観光客にとっては、魅力的な観光資源です。宇治市にしかない貴重な財産を市民全体で大切に守り、次代に引き継ぐとともに、多くの観光客に選ばれる、観光都市・宇治のブランド力を高めます。

II. コンセプト

宇治市は“世界遺産”、“宇治茶”、“源氏物語”といった世界に誇れる観光資源や宇治川を中心とする自然景観などを有する、多くの観光客や市民を惹きつけることのできるまちです。本計画では数ある観光資源の中でも、認知度が高いもののこれまで十分に活用できていなかった“宇治茶”ブランドを最大限に活用していくことを計画の柱としました。また、宇治市の観光を観光事業者だけでなく市民全体で盛り上げ、国内外からの観光客に対して宇治らしいおもてなしの心を持ってあたたかくお迎えしていきたいとの思いを込めて、計画のコンセプトを以下のように設定します。

宇治茶に染める観光まちづくり
～みんなで淹^いれる おもてなしの一服～

Ⅲ.数値目標

平成 13 年度に策定した「宇治市観光基本計画」では、観光入込客数 400 万人であったものを 500 万人に増やす目標を設定しました。しかし、これから日本が人口減少社会を迎えることや国内旅行市場規模が縮小傾向にあること等から、国や京都市の計画においても、観光入込客数等量の上積みを目指しては掲げず、観光客の満足度や経済効果に重点が置かれています。本計画においても観光客の満足度や観光によってもたらされる地域経済の活性化等を指標とした数値目標を定めます。

観光満足度	計画策定時 (平成 23 年度)	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
観光客の宇治市満足度 (飲食・お土産・標識・交通等)	68～95%	55～93%	全て 85%以上



(内訳)

宇治茶（施設、店舗等含む）	84%	85%	85%以上
寺院・神社、名所・旧跡	95%	93%	85%以上
自然や風景（さくら・紅葉 等）	93%	87%	85%以上
源氏物語関係施設等	74%	89%	85%以上
宇治のまちなみ	81%	81%	85%以上
観光案内所などでの情報提供	68%	61%	85%以上
標識などの観光案内		57%	85%以上
交通状況	69%	55%	85%以上
土産について	77%	78%	85%以上
飲食について	80%	81%	85%以上
宿泊について	76%	72%	85%以上

リピーター率	計画策定時 (平成 23 年度)	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
リピーターの割合	58%	56%	70%

京都観光客の宇治への訪問率	計画策定時 (平成 23 年度)	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
京都市へ観光した人が宇治へ来る割合	47%	44%	60%

宇治茶を目的とする宇治訪問率	計画策定時 (平成 23 年度)	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
宇治茶を目的に宇治へ来る割合	15%	24%	30%

市内飲食店利用率	計画策定時 (平成 23 年度)	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
観光客が市内で飲食店を利用する割合	76%	75%	85%

お土産購入率	計画策定時 (平成 23 年度)	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
観光客が市内でお土産を購入する割合	74%	59%	85%

IV. 基本方針

本計画の目標に掲げた“観光都市・宇治のブランド力を高める”ためには、今ある観光資源に磨きをかけるとともに、新たな観光資源を発掘する等観光資源を充実させ、宇治市を訪れていただく観光客に「訪れてよかった、また来てみたい」と感じていただける、満足度の高い受け入れ体制の充実を図り、観光客のニーズに応じた的確な情報提供に努めていくことが重要です。そのため以下の3点を基本方針として定め、基本方針に沿った観光戦略を展開していきます。

基本方針1 宇治らしさを極める

宇治市には、宇治川を中心とする自然景観、世界遺産である平等院や宇治上神社をはじめ、黄檗山萬福寺や三室戸寺等の豊富な歴史遺産、平安時代を舞台にした源氏物語、加えて、宇治茶を好んだ豊臣秀吉が築堤した史跡宇治川太閤堤跡や、お茶に関する伝統的な生業の風景が息づく宇治のまちの文化的景観など、豊富な観光資源が存在します。これらの観光資源に磨きをかけるとともに、まだ埋もれている観光資源を発掘し、光を当てていくことが重要です。

また、世界遺産登録を目指す“宇治茶”は、高級茶として全国的なブランドとなっているものの、宇治市への訪問目的にはつながないことから、このギャップを埋める取り組みを推進していく必要があります。

さらに、観光客が“宇治”にきたことを実感できる、景観や雰囲気等を醸し出すとともに、各店舗においては、個性豊かな店舗づくりやメニュー、お土産等、商品開発力を強化し、集客力のある魅力的な“宇治”ならではのまちづくりを進めていきます。

基本方針2 おもてなし力を極める

宇治市に訪れる観光客が、一度限りで終わることなく、リピーターとして再度来訪いただくには、「訪れてよかった、また来てみたい」と感じていただけるよう“おもてなし”の心を持って迎え入れることが必要です。そのためには、観光事業者のおもてなし力をさらに向上させていくとともに、市民全体が豊富な観光資源を持つ宇治市を誇りに思い、ふるさと意識を持ち、“宇治”ならではの観光資源を見に来られる観光客を温かくお迎えする意識が重要です。

また、観光客の満足度を高めるためには、観光客の視点に立ったより快適な受け入れ環境を整えていくとともに、国の成長戦略として外国人観光客（インバウンド）の増加を積極的に進めていることから、宇治市においても、外国人観光客が観光しやすい環境整備を進めていく必要があります。

基本方針3 情報発信力を極める

観光動向調査等の結果によると、情報不足を主な原因として宇治市へ訪問いただけていない実態が明らかになりましたが、実際に来ていただいた方の満足度は比較的高いことから、まずは“宇治”を知っていただき、来ていただくことが重要です。

観光都市・宇治を日本全国はもとより、世界の観光客に知ってもらうため、インターネットをはじめ、SNSの活用やマスメディアへ積極的に情報発信していく必要があります。

さらに、居住地域や交通手段、また、初めて宇治市に来られた方かリピーターか等によって、求められる情報も異なっており、手法や内容等に創意工夫を凝らしたタイムリーで的確な情報の発信が必要です。

V. 観光戦略

3つの基本方針を基に、6つの観光戦略を掲げ、計画的かつ確実に目標に向けた施策を展開していくこととします。

1 宇治茶ブランド活用戦略

- ①宇治茶に染める観光の推進
- ②宇治茶を守り、後世に伝える事業の推進

2 豊富な観光資源の保全・活用戦略

- ①世界遺産等の歴史遺産との連携
- ②自然・景観の保全・活用
- ③源氏物語のまちづくりの推進

3 観光コンテンツの開発と魅力向上戦略

- ①観光コンテンツの開発・強化
- ②自然景観を活かした観光の推進
- ③観光事業者（商店街・個店）の魅力向上の推進

4 おもてなしの心を持った人材育成・環境整備戦略

- ①おもてなし力・市民意識の向上
- ②観光案内の充実
- ③安全・快適に市内を観光できる環境の整備
- ④おもてなしの心を持った人材育成

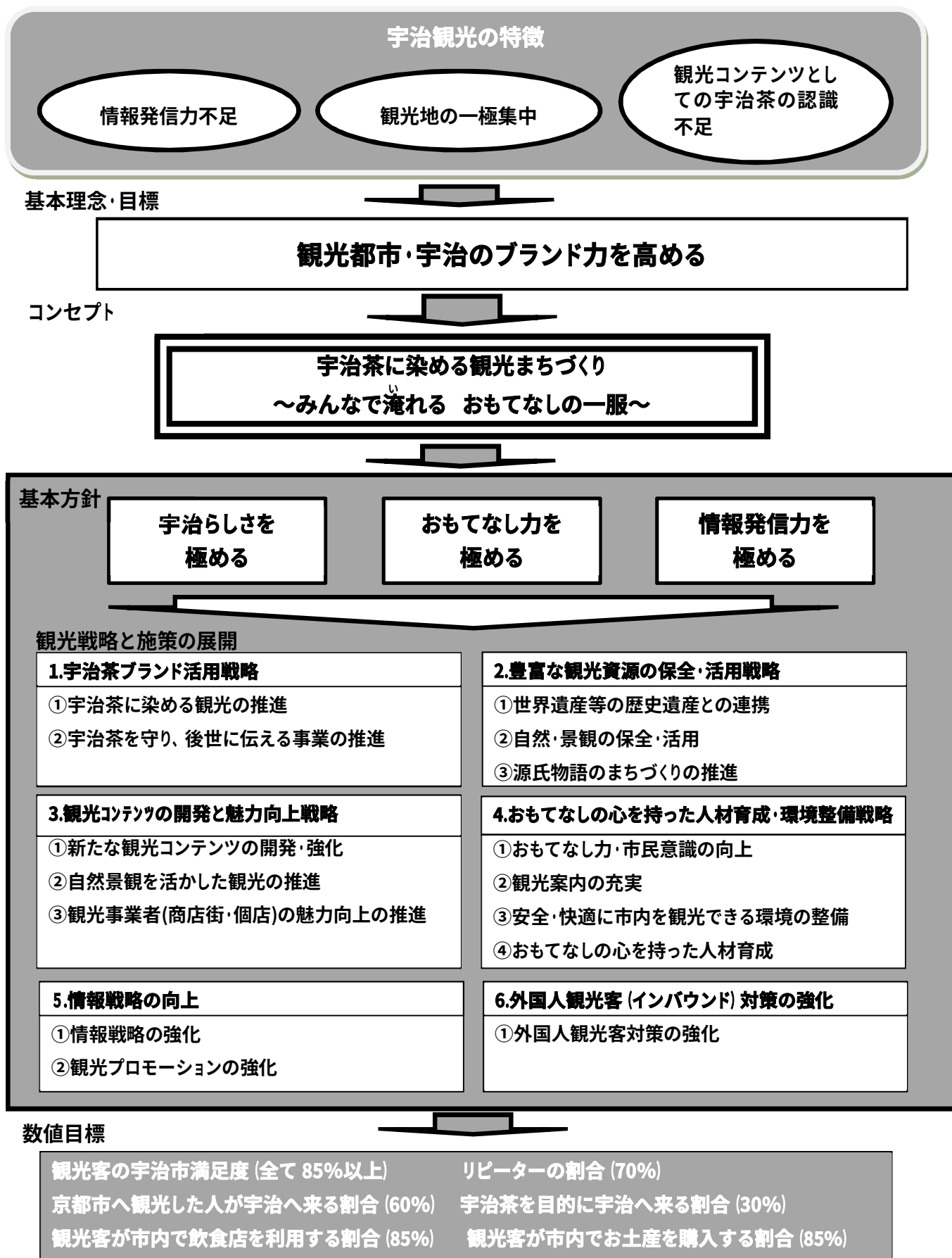
5 情報戦略の向上

- ①情報戦略の強化
- ②観光プロモーションの強化

6 外国人観光客（インバウンド）対策の強化 【新規】

- ① 外国人観光客対策の強化

VI. 計画の体系



VII. アクションプラン

ここでは、戦略毎のアクションプランを記載しています。アクションプランは、5年以内に検討・実施できるものを掲げ、実施主体を明らかにしています。

1 宇治茶ブランド活用戦略

宇治市には「宇治茶」があり、全国的に高級茶としてのブランドが定着し、宇治と言えば“お茶”という都市イメージに繋がっています。市内には、覆下栽培等独特の茶園風景やお茶屋さんが軒を連ねるたたずまいといった宇治市ならではの景観が息づいており、宇治茶を味わうという面からは、市営茶室・対鳳庵でのお点前や、最近では宇治茶を使ったスイーツの人気店等も増加しています。

さらに宇治市を含めた山城地域全体で、宇治茶の世界遺産の登録へ向けた機運が高まっています。日本・世界に誇れる“宇治茶”ブランドを観光に活かすため、宇治茶ブランドの活用戦略を推進します。

1-1 宇治茶に染める観光の推進

宇治に来られた観光客の方に、「宇治茶」を感じていただけるものが少ないのが現状です。そこで、お茶の提供以外にも、宇治茶を活かしたサービス、宇治茶の情報発信等、宇治茶にどっぷりと染まってもらうための、施策を進め、“宇治茶”を目的とした観光客を獲得します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
① 宇治茶を活かしたサービスや観光振興の推進 お茶の香りや呈茶を体験できるなど、茶どころ宇治ならではの宇治茶を活かした観光振興を推進します。	事業者等 観光協会 行政					
		継続実施				
② 市営茶室・対鳳庵や舟茶席での宇治茶の魅力発信 市営茶室・対鳳庵で薄茶や濃茶、玉露等様々なメニューのお茶の提供や舟茶席の広報等、観光資源としての宇治茶の提供に努めます。	観光協会 行政					
		継続実施				
③ 宇治茶の郷づくり構想等の推進 宇治茶の郷づくり構想等の推進により、宇治茶の歴史や文化、景観など各種資源や体験などを結び付け、宇治茶歴史街道を活用した観光誘客に努めます。	事業者等 観光協会 行政					
		継続実施				
④ 宇治茶に関する情報発信の強化 全国に向けて、宇治茶ブランドの情報発信を行うとともに、茶摘みやお点前等の宇治茶体験施設や宇治茶スイーツマップ等、宇治茶に関する着地型情報の発信を強化します。	事業者等 観光協会 行政					
		継続実施				

⑤ 宇治茶を使ったご当地グルメの開発 既成概念にとらわれない宇治茶を使った新しい商品やメニューの開発を支援し販売促進していきます。	事業者等					
		継続実施				

1-2 宇治茶を守り、後世に伝える事業の推進

宇治市内において、茶園やお茶の生産量は減少傾向にあり、他県産のお茶についても京都府内業者による仕上げ加工等により宇治茶と認定されています。このままの状況が続けば、宇治茶の衰退も懸念されます。そこで、市内産宇治茶のブランド化を図るなど、宇治茶を後世に伝え、守っていくための施策を進めていきます。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
⑥ 宇治茶まつり等の伝統行事の啓発 宇治茶まつりや献茶祭、黄檗山萬福寺の全国煎茶道大会等、市内で行われるお茶に関する伝統行事の啓発や宇治茶文化の情報発信に努めます。	事業者等 観光協会					
		継続実施				
⑦ “宇治茶”の世界遺産登録へ向けた取り組み 宇治茶を後世に伝え宇治茶ブランドの価値を高めるため、茶業関係者を中心に地域全体で取り組みを進め、“宇治茶”の世界遺産登録を目指します。	事業者等 市民行政					
		継続実施				
⑧ 宇治茶の消費拡大に向けた取り組み 宇治茶の消費拡大を図るとともに、市民が宇治茶を楽しむ機会の拡充に努めます。	事業者等 行政					
		継続実施				

2 豊富な観光資源の保全・活用戦略

宇治市には、平等院、宇治上神社の世界遺産をはじめ、日本の三禅宗の一つである黄檗宗の大本山萬福寺、つつじやあじさい等花のお寺として名高い三室戸寺、その他にも宇治神社や興聖寺等多数の寺社仏閣があります。また、源氏物語関連施設や太閤堤の遺跡等、豊富な歴史資源が存在しています。

他にも、宇治市を特徴づける自然・文化遺産や伝統産業が凝縮した宇治川周辺地域は、国の重要文化的景観にも選定された地域であり、魅力的な景観が数多く存在します。

こうした豊富な観光資源を保全し、そのブランド力を活用した観光事業に積極的に取り組んでいきます。

2-1 世界遺産等の歴史遺産との連携

宇治市にある世界遺産や豊富な歴史遺産との連携した集客に努め、それぞれのブランド力やストーリー性を活かした観光振興を進めていきます。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
① 世界遺産ブランドとの連携 世界遺産である平等院と宇治上神社が持つ文化的な価値を保全するとともに、そのブランド力と連携した集客に努めます。	事業者等 観光協会 行政					
		継続実施				
② 豊富な歴史遺産の連携 市内には黄檗山萬福寺や三室戸寺等の寺社仏閣の他、「日本遺産～日本茶 800 年の歴史散歩」のストーリーを構成する多数の有形・無形の文化財があり、それぞれの特徴や歴史、ストーリーを活かした観光振興や周遊性を高める広域的な取り組みを推進します。	事業者等 観光協会 行政					
		継続実施				

2-2 自然・景観の保全・活用

宇治川周辺の景観を保全するとともに、観光振興に活かすための事業を推進します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
③ 宇治橋上流景観の保全及び推進 宇治市を代表する重要文化的景観の一つである宇治橋上流をはじめとした宇治川周辺の景観等、豊かな宇治川の自然を保全・活用した観光振興を推進します。	事業者等 観光協会 行政					
		継続実施				
④ 歴史的風致の維持向上に資する事業の推進 宇治の風情を守り後世に引き継ぐため、地域や事業者、行政が連携し宇治らしい街並みや自然景観等、地域資源の価値向上を推進します。	事業者等 観光協会 市民 行政					
		継続実施				

2-3 源氏物語のまちづくりの推進

宇治市がこれまでから進めてきた、源氏物語をテーマにしたまちづくりを推進し、より一層の PR や各種イベント等との連携を強化し、集客増に向けた取り組みを推進します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
⑤ 源氏ろまん事業をはじめとする源氏物語関連事業の推進 源氏ろまん事業をはじめ、これまで進めてきた源氏物語のまちづくりを推進していきます。	事業者等 観光協会 市民 行政					
		継続実施				

⑥ 源氏物語ミュージアム集客対策の強化 新しい展示資料により、新鮮な驚きと発見・感動の機会を作り出し、施設全体の魅力を向上させ、より多くの市民や観光客に親しんでいただける観光資源として活用を図ります。	行政					
		リニューアル実施	継続実施			

3 観光コンテンツの開発と魅力向上戦略

宇治市には、多数の寺社仏閣等の豊富な歴史的資源、魅力的な景観が存在し、特に宇治川周辺は桜や紅葉のシーズンには大変な賑わいを見せています。

しかしながら、宇治市に来られる7割以上の方が平等院に訪れている現状があり、他の資源での集客力が乏しいと考えざるを得ない状況となっています。

そこで、宇治市の魅力をさらに向上させるため、新たな観光コンテンツの開発・強化や、自然景観を活かした観光の推進、観光事業者の魅力向上を推進します。

3-1 観光コンテンツの開発・強化

現状の観光コンテンツを強化するとともに、新たな観光コンテンツを開発・発掘することにより観光振興を図ります。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
① (仮称) お茶と宇治のまち歴史公園の整備 太閤堤の遺構の再現展示や宇治茶に関する体験施設、歴史・文化を紹介する施設の整備を行います。	行政	設計	設計 工事	工事	運用開始	
② 舟運活用の研究 舟運観光の活用方法等について研究・検討を行います。	事業者等 観光協会 行政	研究・検討	実施			
③ 宇治にまつわるコンテンツを活かした観光振興の促進 宇治市にまつわる歴史・ストーリーや、源氏物語をはじめとした宇治を舞台にした作品等のコンテンツを観光振興に効果的に活用します。	観光協会 市民 行政	継続実施				
④ フィルムコミッションの設立 映画やテレビドラマ、CM等のロケ撮影を支援し、映像化による宇治市のイメージアップを図ります。	事業者等 観光協会 行政	実施	継続実施			
⑤ 豊富な自然や文化遺産・施設を活用したスポーツ観光の推進 太陽が丘との連携による大会の誘致や宇治川周辺道路を活用したランニング、ウォーキング、寺社仏閣や世界文化遺産・施設と連携した健康体験等の取り組みを推進し、誘客を図ります。	観光協会 行政	研究・検討			方針決定	

⑥ 観光鵜飼いの伝承・推進 伝統的な鵜飼いを伝承・保存するとともに、他の鵜飼開催地では実施されていない「放ち鵜飼」の実現を目指します。	観光協会 行政					
		継続実施				

3-2 自然景観を活かした観光の推進

宇治独特の自然景観や雰囲気をお客様に味わっていただくため、景観づくりに努めるとともに、市内の周遊性の向上について検討します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
⑦ 宇治川周辺の憩いの提供と美しい景観づくり 大吉山や宇治川周辺の美化など、良好な環境維持に努めるとともに、ベンチ等の休憩施設をはじめとした環境整備に努めます。	行政					
		継続実施				
⑧ 周遊性を高めるための仕掛けの検討 自転車の活用やウォーキングコースの設定など、天ヶ瀬ダム、黄檗山萬福寺や三室戸寺等の広域的な周遊観光の仕掛けづくりを検討します。	事業者等 観光協会 行政					
		検討	実施			

3-3 観光事業者（商店街・個店）の魅力向上の推進

観光客の楽しみの一つには、観る観光だけでなく、“買う”“食べる”といった楽しみも大きな要素になっており、また来てみようというリピート効果にも繋がっています。そうした魅力を担っているのが、市内の商店街や個店であり、来られた方がまた来たいと思っていただける取り組みを進めていきます。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
⑨ 観光地における商店街の魅力向上とにぎわいの創出 宇治ならではの魅力的なお土産やお食事のメニューの開発強化を図るとともに、観光客をターゲットにした商店街等の魅力を高め、まち歩きを楽しんでいただけるようなにぎわいの創出と面的な広がりをもった地域の活性化を目指します。	事業者等					
		継続実施				
⑩ 異業種間連携等による割引サービスの実施 各商店街をはじめ、駐車場、鉄道事業者、寺社仏閣、宿泊施設等に協力を得て、セット券等割引サービスの普及に努めます。	事業者等 観光協会					
		継続実施				

4 おもてなしの心を持った人材育成・環境整備戦略

観光客の方が、気持ちよく宇治のまちを満喫でき、「訪れてよかった、また来てみたい」と感じていただけるよう、「おもてなし」の心を持って迎え入れることが、リピーターの増加に繋がります。

そこで、観光事業者のおもてなし力の向上はもちろんのこと、市民全体にも観光客をあたたく迎える意識を醸成する必要があります。

また、課題となっている観光案内機能やバリアフリーの環境整備等を進め、安全・快適に観光できる環境を整えます。

4-1 おもてなし力・市民意識の向上

市全体でおもてなしの心を持って、観光客を迎え入れるために、観光事業者向けの講座や市民に宇治の良さを知ってもらうための取り組みを推進します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
① 観光ボランティアガイドの有効活用 観光ボランティアガイドの活動を支援するとともに、観光客の生の声を観光協会、事業者等に伝え、情報共有に努めます。	事業者等 観光協会 市民 行政					
		継続実施				
② 「市民観光デイ」の制定 市民に宇治市の良さを知ってもらい、ふるさと意識や観光客を歓迎する意識の醸成を図るため、各施設やお店で市民割引を設ける等官民一体となった取り組みを行います。	事業者等 観光協会 市民 行政					
		継続実施				
③ 宇治の魅力体験講座等の拡充 市民が宇治市の魅力を体感し理解を深めていただける講座等を拡充し、おもてなし意識の啓発に努めるとともに、市民が観光まちづくりに参画できるような仕組みづくりについて検討します。	観光協会 市民 行政					
		継続実施				
④ 学校教育における、宇治の歴史や文化、観光に触れる機会の強化 学校教育の中で様々な方の協力により、宇治の歴史や宇治茶の文化、及び観光の重要性について「宇治学」等を通じた学習機会の整備に努めます。	事業者等 観光協会 市民 行政					
		継続実施				

4-2 観光案内の充実

宇治市へ観光に来られる人々に対して、必要とされる観光情報をよりの確に、簡単に入手できる環境を整備します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
⑤ 観光案内板・道標の再整備 「観光案内サイン整備ガイドライン」に基づき、国内外の観光客にとって分かりやすく景観に調和したサインの整備を推進します。	行政					
		継続実施				
⑥ 観光案内機能の強化 観光センターや観光案内所をより観光客が利用しやすい環境整備に努めます。特に JR 宇治駅前の案内機能の強化と観光地にふさわしい駅前のあり方を目指します。また、京都総合観光案内所「京なび」とも引き続き連携します。	事業者等 観光協会 行政					
			計画	実施		

4-3 安全・快適に市内を観光できる環境の整備

高齢者や障がいを持つ方をはじめ、どのような方でも安全・安心・快適に宇治市を観光できる整備等を推進していくとともに、観光シーズンの慢性的な交通渋滞を解消するための施策や整備を検討していきます。また、民泊についての検討・研究も行います。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
⑦ 観光シーズンにおける交通渋滞解消に向けた検討 交通渋滞解消に向け、市役所駐車場や民間駐車場の活用の他、交通政策の面からさまざまな取り組みを検討します。	行政					
		継続実施				
⑧ トイレ環境の整備・充実 観光客にとって利用しやすいトイレの整備・維持管理に努めるとともに、民間事業者による協力など多様な方法を検討します。	事業者等 行政					
			実施			
⑨ 安全な観光地づくりの推進 災害時の観光客の避難誘導方法の確立やテロ対策等、安全な観光地としての取り組みを進めます。	事業者等 観光協会 行政					
			研究・検討	計画策定		
⑩ 快適で優しい観光地づくりの推進 宇治川周辺関連施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進、トビケラの対策等、観光客が快適に過ごせるための取り組みを推進します。	事業者等 観光協会 行政					
		継続実施				
⑪ 民泊施設の情報把握とあり方の検討 宇治市内における民泊施設についての情報把握に努めるとともに、行政、事業者による連絡協議会を立ち上げ、望ましい民泊施設のあり方について研究を行います。	事業者等 観光協会 行政					
		実施	情報共有			

4-4 おもてなしの心を持った人材育成

宇治市の観光振興のため、「人」と「組織」を向上する方策について検討します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
⑫ 観光推進のための人材育成と体制強化 観光振興の中心となる人材の育成を推進するとともに、観光振興を推進する体制の充実を図ります。	事業者等 観光協会 行政	調整	検討	実施		

5 情報戦略の向上

「平等院は知っているけれど宇治は知らない」といった声をお聞きします。宇治を京都市の一部と捉えられている方も多く、外部への情報発信力が不足しているのは否めません。

そこで、宇治の魅力、宇治でしか味わえない良さを知っていただくために、あらゆる手段や機会を通じて、効果的に情報を発信していきます。

5-1 情報戦略の強化

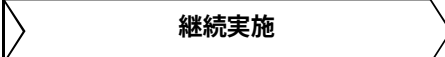
様々な情報媒体や、様々な形での情報発信策を強化し、新たな観光客の獲得に努め、宇治の魅力を国内外へ効果的に発信できる戦略を検討します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
① 効果的な情報戦略のあり方の検討・実施 来訪者へのヒアリングをはじめとした情報収集・検証を行い、SNSの活用や、宇治市以外での宇治土産の販売によるPRなど宇治市の効果的な情報戦略を研究し、実践に活かします。	事業者等 観光協会 行政	研究 検討	情報共有			
② 鉄道事業者や情報媒体への情報提供・連携強化 鉄道事業者の情報媒体や旅行情報誌等へ宇治の魅力を情報提供するとともに連携強化に努めます。	観光協会	継続実施				

5-2 観光プロモーションの強化

広域的な連携による効果的なプロモーションを実施します。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
③ 他市町村・団体との広域的な連携によるプロモーションの実施 他市町村や他市観光協会、お茶の京都DMO等と連携し、お互いの地域の魅力を活かした観光プロモーションを実施します。	事業者等 観光協会 行政	継続実施				

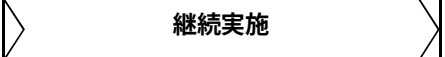
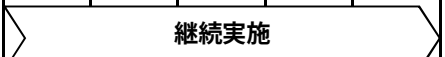
④ JR奈良線の名称変更（愛称設定）の検討 JR奈良線の名称をより親しみやすい愛称となるようJRへ要望する事について検討します。	事業者等 市民 行政					
--	---------------------------	---	--	--	--	--

6 外国人観光客（インバウンド）対策の強化

日本に訪れる外国人観光客は近年増え続けているため、外国人観光客の方々に選んでもらえる観光地として、海外に向け、積極的に宇治の魅力を発信するとともに、宇治に訪れた外国人観光客の方々に満足して帰って頂ける受け入れ態勢の整備を推進します。

6-1 外国人観光客対策の強化

宇治の情報を積極的に海外に発信するとともに、宇治に訪れた外国人観光客の方々が、満足して帰って頂けるよう、観光コンテンツの開発や受け入れ態勢の充実を図ります。

アクションプラン	実施主体	実施年度				
		30	31	32	33	34
① 外国人観光客に向けた効果的な情報発信の強化 外国人観光客に向けた効果的な情報発信を強化するとともに、宇治に訪れた外国人観光客の情報を事業者や観光協会、行政と連携し共有に努めます。	事業者等 観光協会 行政					
② 外国人観光客誘客に向けた海外向けプロモーションの強化 海外の国や地域のニーズを踏まえたプロモーション活動や情報提供を積極的・戦略的に行い、宇治の認知度を上げるとともに外国人観光客誘客を図ります。	事業者等 観光協会 行政					
③ 外国人観光客に宇治の魅力を伝えるコンテンツの研究 宇治に訪れた外国人観光客の動向やニーズを行政・事業者が共有し、外国人観光客に“響く”観光コンテンツの研究・検討を行います。	事業者等 観光協会 行政					
④ 外国人観光客受け入れ環境の整備 両替や免税サービスの導入促進の他、宇治に訪れた外国人観光客が快適に旅行を楽しめるよう、文化的・宗教的背景に対応した受入環境の整備を研究・推進します。	事業者等 観光協会 行政					

第4章 計画の推進に向けた取り組み

1. 各組織の役割

本計画の事業を実施する上で、観光事業者・観光協会・市民・行政のそれぞれの役割を以下に示します。

①観光事業者等の役割

飲食業、お土産業、宿泊業、寺社仏閣、茶業関連、観光に関わりを持つ各種団体等の観光事業者等は、宇治市の観光振興を推進していく原動力は自分たちであるという意識を持ち、観光客や市民に対して、宇治らしい個性的な最高の商品・サービスを提供し、顧客満足度の向上に努めます。また、地域へのかかわりと意義を認識し、異業種間との密接な連携のもと、地域社会・地域経済への貢献に努めます。

②観光協会の役割

異業種間や各種団体間の連携、調整を行い、観光事業者等が実施する観光振興に関する取り組みをサポートし、宇治市の観光を支えるプラットフォームとしての機能を果たします。また、宇治市の観光情報発信の中心的役割を担うとともに、先進的な情報の収集と提供を行い、観光事業者等の活性化に努めます。

※プラットフォーム：関係者間との連携、調整を図る基盤・土台

③市民の役割

市民一人ひとりが、宇治茶や歴史、文化、自然に関する体験等を通じて、宇治市に誇りを持つとともに、観光のまちづくりに関心や関わりを持ち、国内外からの観光客をあたたかく迎え入れます。また、地域における観光振興の取り組みに積極的に参画し、自らも楽しみながら、魅力ある観光地づくりに努めます。

④行政の役割

観光が宇治市の将来を担う主要産業の一つであると認識し、観光振興に向けた行政としての主体的な取り組みや広域的な取り組みを進めるとともに、観光協会や観光事業者等の主体的な取り組みを支援します。また、歴史遺産、宇治茶、自然・景観、歴史文化等の宇治市の財産を次代に継承していくとともに、市民が観光振興の取り組みに参画しやすい環境整備に努め、観光まちづくりを進めます。さらに、本計画の実現に向けリーダーシップをとり、各組織がそれぞれの役割を果たせるよう調整し、計画の実現を推進します。

Ⅱ. 計画の進行管理に向けて

宇治市観光振興計画の目標である“観光都市・宇治のブランド力を高める”ためには、観光振興推進の主役である観光事業者等をはじめ、観光協会、市民、行政が協力し、それぞれの役割を果たしていくことが不可欠です。

また、本計画（PLAN）を「画に描いた餅」に終わらせることなく、目標を実現するための指針とするためには、計画の実行（DO）について観光事業者等をはじめ各種団体に促し、その進捗状況を点検（CHECK）し、計画時点では予測できなかった事象や課題等を踏まえた見直し（ACTION）にも柔軟に対応できる、PDCA による継続的な進行管理体制の構築が必要です。

そのため、行政内部での観光推進体制の整備を行うとともに、観光協会や商工会議所、茶業団体等本計画の推進役となっていていただく関係団体や学識経験者等で構成する「宇治市観光振興計画推進委員会」より、計画を推進するパートナーとしてのご意見をいただき、共に計画の進行管理を行っています。

また、上記関係団体のほか観光事業者、商店街、交通事業者等に行政の観光関連担当課を加えた連絡会議を開催し、実務レベルで連携・調整を密に行い、計画の実現を図るとともに、新たな課題等への対応を行っていきます。